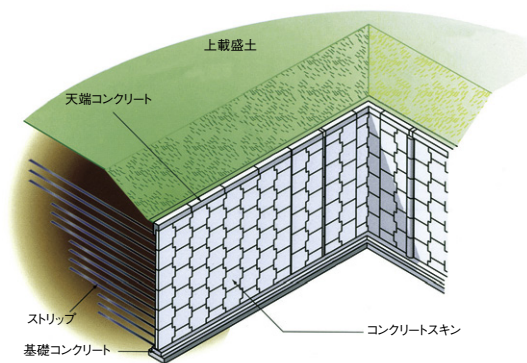


テールアルメ



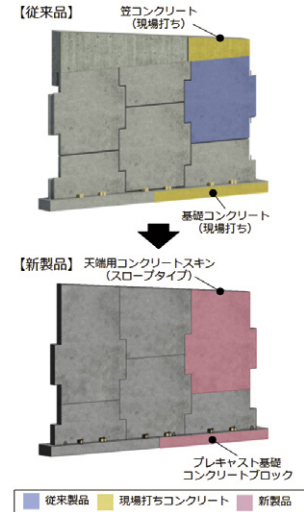
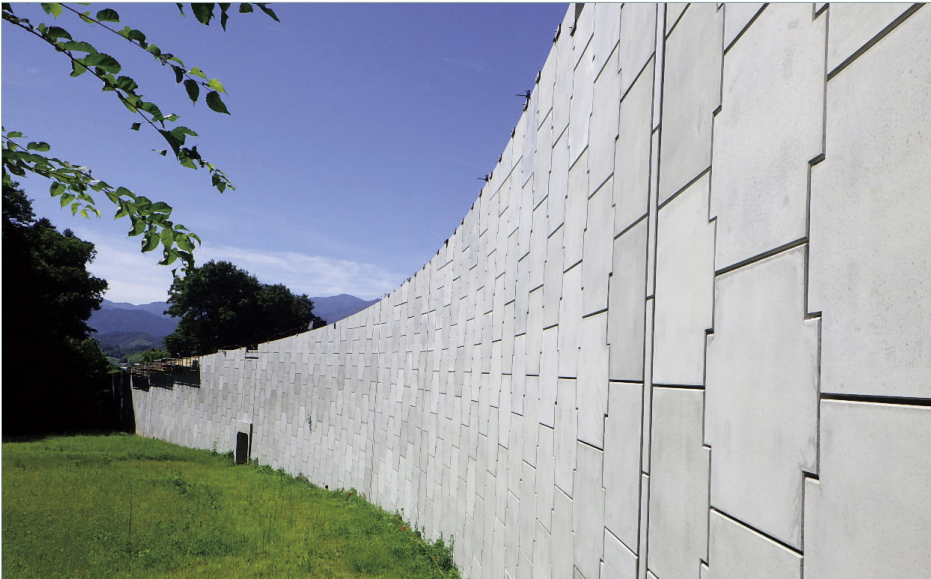
高い垂直盛土壁工法と景観性

土地の有効利用の実現を目指してフランスで発明されたテールアルメ工法は導入されて約50年が経過しています。世の中の流れは効率優先から、自然との調和を大切にする環境重視の考え方へと移りつつあります。そうしたニーズにお応えすべくデザイン、着色、緑化等に配慮した製品造りを心がけています。

特長

- 1 垂直盛土のため、用地は最小限で済み、土地の有効利用が図れます。
- 2 規格化されたプレハブ工法の為、熟練工や特殊な技術は不要で、工期短縮が可能です。
- 3 従来の擁壁に比べ低コストで、高い垂直盛土ができます。
- 4 使用部材は、全て厳しい品質管理の下に、日本テールアルメ協会認定工場で作られる規格品ですので、現場では安心してお使いいただけます。
- 5 フレキシブル構造のため、基礎地盤への荷重は等分布となり、より広範囲な地盤条件にも適応できます。
- 6 規格品の組合せが大半を占める静かな工事で、一般に杭打ちなどを必要としないので、騒音や振動等はほとんど発生しません。
- 7 用途や環境調和等、目的に合わせたカラースキン、デザインスキンも製作できます。

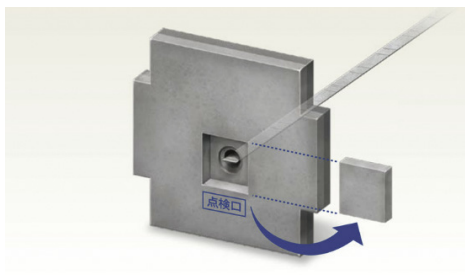
施工例



i-Constructionに対応した工法

オールプレキャストテールアルメ【NETIS:KT-210058-A】

従来、現場打ちで施工していたテールアルメの嵩上げコンクリートと基礎部をプレキャスト化し、施工性・安全性・品質を向上させた「i-Construction」対応のテールアルメ工法です。テールアルメ工法の省力化、工期短縮を実現します。既往のテールアルメ工法の工事期間と比較して35%短縮できます。(壁高6m、壁面積300㎡で算出)



耐久 ストリップの厚み、重量から腐食の進行状況の把握ができる



摩擦 引抜き試験により摩擦係数を確認できる



テールアルメの『経年劣化』を把握

KDパネル

従来、補強土の健全性を評価する場面において壁面材のコア抜き作業が必須となり、ストリップ引き抜き試験を実施する作業が大がかりでしたが、KDパネルにより簡易的に点検が可能となりました。テールアルメ内部の劣化状況を早期の段階で発見し、壁内部の状況を把握する事ができます。

表面は標準パネルと同様のモニタリングパネル(KDパネル)を用いて盛土中に引抜き試験片を敷設し、必要時に壁面材を簡易的に加工、切断することで本体のストリップでは時間を要する引抜き試験を簡易的に行えます。